

子どもの主体的な活動を生む番組活用

北海道札幌市 東月寒にれ保育園 副園長 松本 優雅

保育園（年長クラス） ノージーのひらめき工房

番組の特徴

「ひらめきが自分らしい作品を作る！」をテーマに身の回りのものを観察し、自由な発想を創作遊びへ展開していく流れを通して、自分なりの美意識を発見していく番組である。

研究の概要

身近な素材を自由に組み合わせた楽器作りを楽しみ、視聴から制作までの流れも意識付けながら実践した。実際にアイデアを練ってから演奏するまでの一連の流れを視聴することにより、期待感を持ってより意欲的に取り組めた。集中した視聴がより理解を深め、保育士の想定以上の楽器を制作する姿も見られた。また、理解や実践に時間のかかる子どもも楽しんで参加できていた。

活動デザイン

活動名：身近な材料を利用した楽器製作
目標：手作り楽器から出る音と演奏を楽しむ

導入

モチベーションを高めると共に、目標やテーマの確認をする。園児の配置等の外的確認を行うと同時に、視聴時の約束も行う。

番組視聴

楽器をつくろう！

視聴中

番組内で作られる楽器を見て、素材から出る音に注目し、叩く、振る、弾く等の音の出方の違いを知る。手作り楽器の奏でる音を感じ

意見交換

感想を話し合い、内容を振り返る。作りたい楽器に必要な材料や手順をイメージする。

製作

怪我に注意しながら、廃材の組み合わせや装飾を行う。ハチやピックなどを用いて楽器から出る音を楽しむ。

まとめ

各自の工夫を聞きながら、出来上がった楽器を実際に鳴らしてみる。



番組や関連動画クリップの活用意図

作りたいという意欲の喚起

子どもが、番組視聴を通して楽器作りの過程を知り、実際に鳴る音を聞くことで、意欲と期待を持って制作できるよう活用する。

遊びへの発展性

楽器を用いた遊びへの展開が期待できる。

家庭でのコミュニケーション

楽器を持ち帰り、家庭内でコミュニケーションを図ってもらう。

活動デザインにかかわる工夫

家庭との連携

準備の際には、使用する素材を保護者と一緒に音をイメージしながら選んでもらった。

視聴に関する工夫

あえて保育者が反応したり一定のコミュニケーションをとったりすることで理解度の差を埋めていく。

特殊環境への配慮

材料を囲むような配置でスタートし、シートをかぶせて期待感を持たせるとともに、子どもの集中が向きやすいようにした。

安全面

空き缶やはさみ等が混在する制作であることから園児の安全面に配慮した職員配置や指導を行った。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの感想

- 同じ材料でも鳴らし方の違いで音が変わった。
- たくさんの楽器が出てきて面白かった。
- それぞれ違った音がでて楽しかった。もっと作りたい。
- シールでかわいく飾り付けていたので自分も工夫した。

保育士の評価

- 意欲や期待感が大きく膨らむのは番組活用のメリット。
- 「見るだけ」にならない工夫と準備が常に必要。
- 番組内での演奏シーンを見て、その後の遊びへの発展も意識しながら制作している姿も見られた。
- 活動理解の差が視聴により小さく、全員が楽しめていた。

実践を終えて＜行動宣言＞

放送教育番組は一つの番組の中にも様々なテーマがあり、園の特色にあった内容を選びながら活用することに魅力を感じた。今後は保育内容との連動をより意識しながら、自然をさらに豊かに感じたり、進学後の生活ルールを学んだりすること等にも活用の幅を広げていきたい。